

東京芸術祭直轄事業「まちなかプログラム」 事業計画

1. 事業枠組み：

(1) 主催

東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、東京芸術劇場・アートカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、東京都〕

(2) 事業概要

当委員会は、東京都が掲げる「東京文化戦略2030」を実現する中核的な機関として東京芸術祭を実施している。東京芸術祭では、芸術祭を通じて芸術文化が果たす機能を都民をはじめ多くの人に分かりやすく示すために、劇場以外でのプログラムを数多く実施してきた。東京芸術祭 2022 まちなかプログラムは、豊島区が国際アートカルチャー都市発信事業で掲げる「まち全体が舞台の誰もが主演になれる劇場都市」の実現のために、劇場以外の場所でこれまで以上に多くの地域住民が参加し楽しみながら地域全体を盛り上げ、観光・まちづくり・地域の文化芸術の振興に寄与することを目的に実施するプログラムである。

(3) プログラムディレクター

東京芸術祭共同ディレクター 長島 確（ながしま・かく）

ドラマトウルク。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。その後、日本におけるドラマトウルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年はアートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』（阿部初美演出）、『4.48 サイコシス』（飴屋法水演出）、『フィガロの結婚』（菅尾友演出）、『効率学のススメ』（ジョン・マグラー演出）、『DOUBLE TOMORROW』（ファビアン・プリオヴィル演出）ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』（ともに東京アートポイント計画）、「ザ・ワールド」（大橋可也&ダンサーズ）、『←（やじるし）』（さいたまトリエンナーレ 2016、さいたま国際芸術祭 2020）、『半七半八』（中野成樹+フランケンズ）、『まちと劇場の技技（わざわざ）交換所』（穂の国とよはし芸術劇場 PLAT）など。訳書に『新訳ベケット戯曲全集』（監修・共訳）ほか。フェスティバルトーキョー18～20ディレクター。東京藝術大学音楽環境創造科特任教授。

共同ディレクター 河合千佳（かわい・ちか）

武蔵野美術大学卒。劇団制作として、新作公演、国内ツアー、海外共同製作を担当。企画製作会社勤務、フリーランスを経て、2007年、NPO法人アートネットワーク・ジ

ヤパン（ANJ）入社、川崎市アートセンター準備室に配属。「芸術を創造し、発信する劇場」のコンセプトのもと、新作クリエーション、海外招聘、若手アーティスト支援プログラムの設計を担当。また同時に、開館から5年間にわたり、劇場の制度設計や管理運営業務にも携わる。2012年、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局に配属。日本を含むアジアの若手アーティストを対象とした公募プログラムや、海外共同製作作品を担当。また公演制作に加え、事務局運営担当として、行政および協力企業とのパートナーシップ構築、ファンドレイズ業務にも従事。副ディレクターを経て、フェスティバル/トーキョー18～20共同ディレクター。2021年より現職。日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師（2017年～2021年）。

(4) 主な会期

2022年10月6日～11月6日（予定）

各プログラムの実施日程はディレクター、アーティストおよび当委員会と十分な調整を行ったうえ決定すること。

(4) 実施会場

豊島区内各所

具体的な実施場所はディレクター、アーティストおよび当委員会と十分な調整を行ったうえ決定すること。

(5) 主たる期間のスケジュール（予定）

日 程	場所・会場	内 容
6月下旬	豊島区内	豊島区内リサーチ開始
7月上旬		プログラム名および概要決定、プログラム参加者やボランティアの募集開始
7月下旬		プログラム詳細決定
8月上旬	芸術劇場	記者発表、アーティスト登壇、プログラムの詳細情報公開 *プログラム名および概要発表
9月上旬		鑑賞者等の募集開始
10月6日～11月6日	豊島区内	プログラムの実施・発表・上演

2. 内 容：

(1) まちなかプログラム1

集団制作という独自のスタイルで作品を発表し続ける劇団「快快」のメンバーであり、舞台美術家の佐々木文美によるアートプロジェクト。プログラムを通して豊島区の魅力を発信するために、豊島区内でリサーチを重ね、地域の文化団体や商店街などと協働し、多くの豊島区民とともに地域全体を盛り上げるプログラムを目指す。年齢や国籍に関係なく

多くの人々が主体的に参加可能なプログラムすることで、舞台芸術の裾野を広げるために、プログラムの参加者同士が顔と顔でつながる関係性をつくる。また、プログラムの実施を通して、大学などの教育機関との連携も探る。

① リサーチ

〔日 程〕 2022年6月下旬から7月まで 不定期

〔会 場〕 豊島区内およびオンライン

同じ豊島区に住んでいても、普段は繋がらないような人々が本プロジェクトを通じて、共通体験を得られるようなアイデアをディレクターとともに練り、実現可能性を模索する。そのために豊島区内リサーチやヒアリングを行うとともに、地域団体や商店街にアプローチをはかり、協力を仰ぐ。

実現に向けてプロジェクトに必要なメンバー、スタッフを確定し、ディスカッションを重ねる。

ディスカッションにはオンライン会議システムなどを活用する。

②実施に向けた具体的なクリエイション、広報展開

〔日 程〕 2022年8月から9月

〔会 場〕 豊島区内

地域に根ざした広報展開をアーティスト、ディレクターとともに進め、参加者を募る。またリサーチの中で賛同を得られた地域の協力者と協働し、実施に向けた準備を行うとともに、スタッフと打ち合わせを重ねる。

③プログラムの実施および集客、会場管理

〔日 程〕 2022年10月上旬 1～3日

〔会 場〕 豊島区内

(2) まちなかプログラム2

地域に根ざしリサーチを重視する劇団活動の経験と、都市計画を専門に学術研究する2つのバックグラウンドをもつ 阿部健一とともに豊島区内をリサーチし、地域の文化団体や商店街、文化施設、名所などと連携して実施するプログラム。IKEBUS（イケバス）や豊島区4つの公園などを使って、多くの人々を巻き込み展開することで、豊島区の魅力を発信し、多くの豊島区民とともに地域全体を盛り上げるプログラムを目指す。

①リサーチ

〔日 程〕 2022年6月下旬から8月まで 不定期

〔会 場〕 豊島区内およびオンライン

本プロジェクトのために豊島区に一定期間滞在するアーティストとともに、リサーチやヒアリングを行う。IKEBUS や公園をよく利用している層にアプローチし、まちなかや家庭で、プロジェクトに参加・体験してもらえる仕掛け作りをディレクターとともに練り、具体的なアウトプット方法を探る。豊島区内の公共施設等との交渉や、主たる地域団体や商店街にもアプローチをはかり、協力を仰ぐ。また、広報ツールそのものが、

参加・体験に繋がるような製作物のアイデアを構想し、検証を行う。

実現に向けてプロジェクトに必要なメンバー、スタッフを確定し、ディスカッションを重ねる。

ディスカッションにはオンライン会議システムなどを活用する。

②実施に向けた具体的なクリエイション、リハーサル、広報展開

[日 程] 2022年9月から10月

[会 場] 豊島区内

リサーチの中で賛同を得られた地域の協力者と協働し、実施に向けた準備を行うとともに、スタッフと打ち合わせを重ねる。また、IKEBUS や公園でのプロジェクト実現に向けて、リハーサルを行う。

③プログラムの実施および集客、会場管理

[日 程] 2022年11月上旬 1～3日

[会 場] 豊島区内

(3) まちなかプログラム3

東京芸術祭期間中の情報発信および活動拠点として、芸術祭の来場者や区民が気軽に立ち寄る場を東京芸術劇場アトリエイーストに設置。東京芸術祭の多様なプログラムを横断的に体験できる場づくりを行うプログラム。なお、東京芸術祭の他のプログラムと連携することで、アーティストや関係者によるアフタートーク、レクチャー、ミニパフォーマンスやコンサートなどの会場としても活用し、来場者やアーティストが地域住民と直接交流するスペースを目指す。本事業ではその一部として参加型プログラムをアトリエイースト及びまちなかで展開する。

[日 程] 2022年10月6日～11月6日（予定）

[会 場] 東京芸術劇場アトリエイーストほか

(4) その他

当事業は劇場以外の場所で多くの地域住民とともに地域全体を盛り上げる事業であり、東京芸術祭の来場者やアーティストを地域住民が出迎え、交流を育むことが前提となる。この具体的な実施のため区民ボランティアの活用など、プログラムに区民を巻き込む施策を取り入れた上で実施する。

以 上